

「中長期的な物価安定の理解」の明確化

■ 「中長期的な物価安定の理解」とは

- 金融政策運営に当たり、各政策委員が、中長期的にみて物価が安定していると理解する物価上昇率（06年3月導入）
—— これまでの表現：「0～2%程度の範囲内にあり、委員毎の中心値は、大勢として、1%程度となっている」（09年4月）

■ 「理解」の明確化

（基本認識）

- 日本経済がデフレから脱却し、物価安定のもとでの持続的成長経路に復帰することが極めて重要な課題

（明確化のポイント）

- ✓ ゼロ%以下のマイナスの値は許容していない
- ✓ 中心は1%程度

消費者物価指数の前年比で2%以下のプラスの領域にあり、委員の大勢は1%程度を中心と考えている

■ リスク点検の重要性

- 上記の「理解」を念頭に、金融面での不均衡の蓄積も含めた様々なリスク要因も点検

以 上